

HONTAN

図書館ボランティア「本探」が

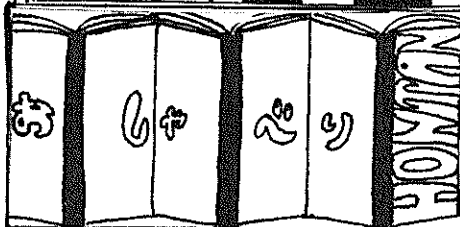
旬の図書館情報をお知らせします



おいしい情報がいっぱい

第21号

2011年9月1日



改めてファン層が広がったのではないかと、とうい、たまたま嬉しいなど。あはハリーポッターの映画完結で、また読み直そうかなと思いつつモ体カと気が要りそうじゃありません。原作付きの映画と言えばプリンセスヨシもよかったです。

映画化など映像化された小説は話題になりやすいですね。個人的には東直己さんの『梁伯はバーにいる』を読んでみたんです。話題ではないですが昔の小説の表紙を変えて売っているのをよく見ます。中身は同じでも表紙が変わるだけで売れるのを見て、表紙の力を改めて実感しました。

今回は、『2011年上半期、どんな本を読んだ?』というテーマでそれぞれ話してモウいました。

〈葉〉やはり本屋大賞をとった東川篤哉さんですね。

個人的には「チーム……」という感じでしたか。

〈花蓮〉話題かな? と思うのは「神威のカルビ」。映画化するから昨年の本下すど読み直した人モいるだろうし。

映画ばかりでいえば、小路弘の「東京公園」が話題になったかな、と思いましたが、賞をとったか、原作である小説にはこれか注目されるのかな、と期待しています。

〈花蓮〉図書館戦争の文庫化で井上三亜さんが再燃しました。私の中で。

〈空〉話題の本はあえて読まない派で、私は機関誌は号のほかに一冊に掲載されていた島本理生の「ナターシャ」読みました。機関誌の有意義な活用でした。皆さんも秋読書の参考に機関誌HONTAN読んでね!

〈となか〉上半期の本屋大賞ノースをいくつか読みました。

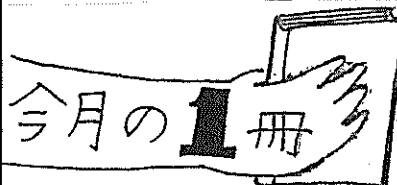
映画といえば、「八月の葉」を読んだ方も今年の上半期でした。ただ感動的な話かと思え、し、かり現実的な話でした。でもその中にほんの少しの救いという光があるか。素敵です。好きです。

〈あき〉上半期読んだ本としては桜庭一樹さんのGOSICKシリーズです。桜庭さんの本は初めて読んだのでかかもよかったです。

〈卯月〉今年話題になった本といえば、やはり東川さんでしょうが、今度ドラマ化する予定です。最近小説を映画&ドラマ化することが多いなあと思つてます。今年読んだ本は東川さんの「ゴーストハントシリーズ」しかなかったことに軽く反省したり……。

下半期はもと積極的に本に注目しようかと反省しました。

〈葉〉上半期読んだ本は重松清の「青い鳥」です。映画を見て原作も読んだのですが考えさせられることがたくさんありました。東野圭吾の「夜明けの街で」が正確かもう映画化されたはずですが、結構なモシロいんです。

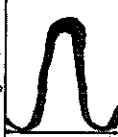


「ほとには数字が風景に見える」
ダニエル・タメット著
古屋美聖訳 936/P

DVD 展示紹介



HONTAN 展示で
みつけて



企画 展示 紹介

ありまるか? この本は、そのすべてを持って生活している著者ダニエルの手記です。

彼にとって、数字は言葉の「う」なものであり、風景です。彼の数字のつとつとつとつと手に触りや色や感情をみます。そして数字の組み合わせが風景に見えるのです。また言語も堪能で、11ヶ国語話ることができる天才でもあります。しかし、そんな天才的な能力と共に、彼はコミュニケーションにハンディを抱えた人物でもありました。彼はそんな自分に悩まながらも、周囲の温かい愛情に包まれて少しずつ自立していきま。人と違っていてモきくと自分らしく生きられる。そう教えてくれるノンフィクションです。

〈となか〉

今回は「おいしい食べ物が出てくる本」を集めました! 読書の秋はもちろんですがか、一緒に食欲の秋も満喫してみませんか?

〈空〉今回のDVD展示は料理や食に関する映画を集めた「食欲の秋! おいしい映画特集」と「ノンフィクション映画特集」です。今回は展示場所がHONTAN掲示板下に変更されました。是非ご利用下さい。

〈花蓮〉

HONTAN 10 PIECES

今月の10PIECESのテーマは
「思わぬ泣いた! 本」
です。思わぬ涙を誘われた本。
きっと一冊以上はあります。

『凍りのくしろ』
辻村深月 9/3.6/T
自分の居場所はどこにもない。
そんな思いを抱える彼女が光を見つけた
までの物語。

『光媒の花』
道尾秀介 9/3.6/M
闇を抱えて生きる人が繋がった
とき、おづから希望が生まれる。
哀しくも美しい物語

『ブランケット・キャッツ』
重松清 9/3.6/S
年代も立場も全く違う主人公
たちのもとへ、レンタル猫がやってくる。
全7編の短編集。

『ハッピーバースデー』
青木和雄、吉富多美 9/3.6/A
愛に飢え愛を探る家族の物語。

『おそれられないみくりもの』
スーザン・パレイ さくえ
小川仁央 やく 9/26.6/V
保育園時代に読んで号泣。
人生で最初に感動した本。

『赤い指』
東野圭吾 9/3.6/H
二つの犯罪が、二つの哀しい真実を
生み、二つの親子を繋げる。

『ビューティフルライフ』
北川悦吏子 9/3.6/K
夢に見たのは赤い華を履いて
彼と手を繋いで走りまわること。

『手紙』
東野圭吾 9/3.6/H
殺人を犯した兄。
直貴は、兄のせいでもない大切な
ものを失ってしまう……。

『その日のまえに』
重松清 9/3.6/S
誰かを残してこの世を去ってほう
切なさ、残される者の痛み。
死ぬって何だろう?

『自殺ドミノ』
石原行雄 368.3/I
自殺事件に巻き込まれた人々の
被害と証言を集めた一冊。
自殺、XX、ゼッタイ。

一箱古本市に参加します。
9月17(土)、18(日)にキャホ大谷市内のくろみ書房さんで行われ
る一箱古本市にHONTANも参加させて頂くことになりました。
一風変わった古本市に、皆さん是非足を運んでみて下さい!
思わぬ涙り出し物があるかもしれません。

HONTAN
雑誌の書評を
紹介
**Pick-up
MAGAZINES**
上げる雑誌SWICH。シズをプッシュする今号
では、ブック・コーディネーター内沼晋太郎が選んだ
これもお笑ひシズなんでも15冊が紹介されて
います。でも15冊の中には……え、お茶の本も
入ってる? なんでも内沼さんが言うには「作法
をおか環る人がいて、その先で宇宙とつながるとい
う点でお茶とシズは似ている」とか。格好良しシズ
を聴きながら、シズの本に酔いしれてみませんか?
→「茶の本」岡倉天心著:Y-ノン不破直子訳
〈とかか〉

SWICH
Vol.29 no.8 P66
「クリエイター」
や「アーティスト」
を幅広く取り
上げる雑誌
本探力
「迷信? 怪談?」
まだまだ暑い日も
続き、海に行く人も多い
と思います。しかし、お盆を
過ぎた海に入るとあの世
の人の足を引張られてし
まうので「要注意。これは
私の信じている迷信なのだから、お盆を過ぎると涙が高く
なるのでわがやなくもないなあ」と感じます。貴方はどんな迷信を
信じますか? 地域の生活教訓からきているかたいて「怪談
とも似ていますね。
残りの夏は怪談や迷信で涼んでみては?
→迷信調査協議会「生活慣習と迷信」387/M-3、原心「怪談・奇談の淵」
ジュノ特別編 2F ミニドラマア707 778の
主人公は普通の女子高生ジュノ。そんな彼女が妊娠
をしてしまいます。もちろん中絶を考えたのですが中絶
しようと訪れた病院の前で中絶反対運動中の
同級生に、お腹の赤ちゃんにはもう爪たたく生
えているのよ。と言われ……。
彼女がどういった選択をするのか、続きはご賞読。(9/1)

またモHONTANに新メンバーが
2名加入しました。次号からの活躍と
なります。旧メンバー共々宜しくお願い致します。
(珠)

